

令和3年度 福井県立科学技術高等学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程・学習指導・研修	生徒の活動を主体とした年間学習指導計画を作成する。	96%の教員が、生徒の活動を主体とした年間学習指導計画を作成し、計画通りに進められたとしている。授業の進度は「(ちょうど、おおむね)良かった」と答えた生徒は92%と、昨年より3%減少した。また、「速く感じた」と答えた生徒が昨年に続き4%いる。学年別に見ると、2・3年に比べ、1年生でそう感じた生徒が多くいる。	「学習と進度に関するアンケート」の結果を念頭に置きながら、生徒の理解度がより深まる授業を目指す。そのため、クラス別の教科科目の理解度を分析する。また、次年度より、新学習指導要領が実施されるのに合わせ、授業の内容を見直し、理解の遅い生徒にも対応できる年間学習指導計画を作成する。
	小テストの実施、ICT教材の活用、レポート・課題などを通して生徒の知識の定着を図り、学習到達度の自己理解を深めさせる。	レポート・課題の提出は、92.9%の生徒ができている。また、授業内容については、88.4%の生徒が、「(よく、おおむね)理解できた」と答えており、知識の定着が図られているが、「(あまり、まったく)理解できなかった」と答えた生徒は昨年度の8%よりやや増加して11.6%となった。学年別では、1年生が22%で特に多くなっている。	基礎的な知識の定着に留まらず、もう一步進んだ内容に取り組むため、資格試験との連携をとるように工夫する。また、理解の遅い生徒に対して、生徒同士で教え合う雰囲気を作っていくことや、今年度より導入されたタブレット端末を利用してよりわかりやすい授業を行っていく。
2 生徒指導	毎朝遅刻指導を行い、基本的な生活習慣を身につけさせる。	遅刻回数が学期に3回以下の生徒は93.5%であり、ほとんどの生徒が規則正しい生活を送っている。しかし、意識が低い生徒も若干おり、遅刻や基本的な生活習慣が遅れていない生徒は決まった生徒の場合が多い。	毎朝の生徒玄関前での指導等の効果が上がっている。遅刻の多い生徒に対して保護者と連携を密にし、生徒に対しては褒めることや声掛けなどを徹底して意識づけの工夫などを継続して指導する。
	頭髮服装の指導を通して、校則遵守の必要性を理解させる。	生徒は97.6%の高い数値で、目標をクリアできている。保護者の意識も85%と高く、校則遵守にご協力いただいているが、昨年度に比べると保護者の意識が下がってきているので、周知徹底を図りたい。	規範意識がやや低い生徒に対しては日頃から声をかけ、生徒が自分を律する態度が身につくように粘り強く指導する。また保護者にも校内規範について周知徹底を図り、高い数値を維持したい。
	部活動の充実を図る。	部活動の加入率は、1年生95%、2年生93%、3年生62%である。そのうちの83%の生徒は、積極的に参加している。	部活動の活性化をいっそう図るため、全校集会などで部活動を継続させる働きかけを行い、加入率の維持と向上を図る。
3 進路指導	進路一斉模試、進路一斉指導等を実施し、基礎学力の向上と進路意識の高揚を図る。	進路に対する意識を高める項目では、3年生が99%、2年生は94%、1年生は70%である。23年は昨年度より増加している。しかし、1年生においては、87%から70%へ減少しているため、今後の課題として取り組む。	1年生のうちから、県内企業の現状や社会情勢を伝えたり企業見学や進路ガイダンスを積極的に行い、もっと意識を向上させたい。2・3年生においては向上がみられるため、今後も継続して指導する。
	進学や就職のガイダンス、面接、作文指導等を実施し、選考試験に合格できる実力を身につけさせる。	94%の保護者に「子供の進路指導に(おおむね)満足している」という評価をいただき十分な成果を得ている。また、99%の生徒が、身なりや言葉遣いの向上を実感している。	生徒の希望する進路先に進めるよう次年度も面接練習を充実させる。不合格の理由を分析し、生徒が自信をもって入社試験に臨めるように指導する。
4 保健管理	健康診断と事後処理を計画的に実施し、必要に応じて早期治療を働きかける。	新型コロナウイルス感染症予防に関しては生徒・教員・保護者併せた平均97%超えと、ほとんどが「注意を払って(おおむね)生活できた」と答えている。その一方で日常の健康管理ができたと回答した生徒は88%、保護者は85%とコロナとは約10%の差があり今後の課題として取り組む。	自分の健康課題を意識させ、保護者にも協力を得て、日常の健康管理に自ら取り組ませる。新型コロナウイルス感染症予防に関しても継続して行う。
	学習環境に関心をもち、環境の美化・整備を進める。	清掃活動への取り組みについて、98%生徒が取り組めたと答えている。ほとんどの教員が安全で清潔な学習環境の形成に取り組み、96%の保護者が学習環境について満足している。	校舎内外での清掃活動や清潔で安全な学習環境を形成する体制が出来ている。今後も継続して生徒が自らの学習環境に関心を持てるよう指導する。

5 保護者との連携	保護者と学校との連携事業（ブランター花壇作り、学校祭バザー販売、強歩大会湯茶サービスなど）を実施する。	保護者と教職員が共同して取り組むPTA活動の企画に関して、「（たいへん）積極的な企画だと思う。」と答えた保護者が94%となり、また95%以上の生徒が「（とても）良いことだと思う。」と答えている。しかし、教職員に関しては「（たいへん）積極的に活動していた。」と答えた割合が78%と、目標の70%を超えているものの低い数字となった。これはコロナ禍における活動の縮小によって、保護者と活動する機会が減ってしまったのが原因であると考えられる。	コロナ禍であっても、教職員と保護者が関われるようなイベントを企画することで、つながりを強化したい。また、ホームページを充実させ、教職員・保護者が連携できる情報を発信していく。
	広報活動の一環として、PTA広報誌「水仙」の充実を図る。	水仙の内容に関して、「（おおむね）適切であった」と答える教職員が100%になった。保護者に関しても、94%が水仙によって、学校で行っている行事を「（おおむね）理解できた。」と答えた。しかし、「（まったく）理解できない」と答えた保護者もいるので、その原因を精査することが今後の課題である。	県広報紙コンクールで、4年連続最優秀賞をいただいた。今後も無理のないスケジュールで広報委員の方々のご協力をいただきながら活動を継続していきたい。
6 図書指導	広報活動を通して、読書に親しみを持たせ、読書に興味を持たせる。	生徒の評価は64%で昨年度とほぼ同じ割合であり、まだ目標値には達していない。しかし、「子どもが読書の必要性を感じるようになった」と回答している保護者は87%となり、昨年度より上昇し目標を達成した。	スマホ、ゲーム等のデジタル機器による若者の読書離れが危惧されている。生徒の読書への興味・関心の持たせ方の工夫の継続が必要である。保護者への広報活動も拡充していく。
	視聴覚教材の効果的利用を図る。	87%の教職員がICT機器や視聴覚機器を活用していると回答し、ほとんどの教職員が授業や実習にタブレットや視聴覚室を活用していると考えられる。	今後もICT機器や視聴覚機器の活用に積極的に取り組み、生徒の理解度を高めていく必要がある。そのためにもより使いやすい環境整備を考え、充実させる必要がある。
7 ものづくり教育	検定や資格試験に積極的に取り組む。	保護者94%、教職員97%、生徒87%ですべてが資格試験や検定に積極的に取り組み、目標を達成できている。	今後も資格試験や検定に積極的に取り組み、学習意欲を喚起させる。また合格率及び合格者数を上げるよう継続して支援する。
	学科での実習で、基本的知識・技術を身につけさせ、課題研究では、校内での発表会において、成果を披露させる。	保護者95%、教職員96%、生徒93%ですべてが目標を達成できている。実習見学会や課題研究発表会を積極的に利用することが大切である。	実習では基本的知識・技術を、課題研究ではさらに高度な専門的な知識・技術を身に付けさせ、ものづくりに興味関心を持たせる。
	ものづくりコンテストやロボットコンテスト・マイコンカーラリー・デザイン系コンクール等に積極的に参加させる。	保護者、教職員は目標を達成できているが、生徒が3年71%、2年65%、1年48%とどの学年も目標を達成できていない。達成できなかった要因として、コロナ禍で、計画されていたコンテストやコンクールが中止になったことがあげられる。また下の学年ほど積極的参加達成度が低く3年生主体の参加になっていると考えられる。	コンテスト・コンクール参加生徒が昨年度全体の約17%に対して、今年度69%と増えていることは望ましい。ただ3年生主体の参加になり、1・2年での積極的参加が少なくなるのであれば低学年でも多くの生徒が積極参加できるよう、取り組み方を検討する。

|